

2025 年 12 月 28 日 聖霊降臨節第 19 主日 礼拝次第

歳末・主日礼拝

前 奏 (黙 想)

招きの言葉 イザヤ書49章 11～13 節(旧約 1143 節)

讃 美 歌 276(あかつきの空の)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩 編 交 読 詩72編 1～7 節(交読詩編 81 節)

聖 書 マタイによる福音書2章 1～12 節(新約 2 節)

祈 禱

讃 美 歌 269(飼い葉桶に)

説 教 「不安を抱いた」 田中雅弘牧師

讃 美 歌 249(おさなご、イエスよ)

信 仰 告 白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献 金

讃 美 歌 88(こころに愛を)

派 遣 祝 福

後 奏 (黙 想)

報 告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

聖 書 マタイによる福音書2章 1～12 節

占星術の学者たちが訪れる

1 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、2 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」3 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。4 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。5 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

6『ユダの地、ベツレヘムよ、

お前はユダの指導者たちの中で

決していちばん小さいものではない。

お前から指導者が現れ、

わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

7 そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8 そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。9 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。11 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。12 ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

讃美歌276番

- 1 あかつきの空の 美しい星よ、まことの光。  
エッサイの切り株の 新しい枝よ、ダビデの子イエス。  
主よ、主よ、とうとい恵みの光よ、わが丘、わが主よ。
- 2 マリアより生まれ、人の世に生きたみ 神の子イエス。  
みことばは甘く、みからだと血とは わたしを生かす。  
主よ、主よ、とうといわれらの命よ、天のマナ、わが糧。
- 3 喜びにあふれ、たて琴を奏で、ほめ歌うたえ。  
花婿主イエスの限りない愛を心に受けて。  
主よ、主よ、あなたに感謝はつきない。愛するわが主よ。
- 4 愛する主イエスは アルファまたオメガ、初めと終わり。  
み恵みによりて この身をも祝し、み国へ招く。  
アーメン、アーメン、まもなく来られる主イエスよ、  
せつに待ち望む。

讃美歌249番

- 1 おさなご 主イエスよ。  
みむねにしたがい 共に生きるため  
貧しい姿で この世に来られた。
- 2 おさなご 主イエスよ。  
み父の怒りを しずめてわれらに  
罪のあがないと 恵みをもたらす。
- 3 おさなご 主イエスよ。  
この世に来られて、悲しみの中に  
苦しむわれらを なぐさめはげます。
- 4 おさなご 主イエスよ。  
あなたを愛する 愛の火をともし  
われらの弱さを 強めてください。
- 5 おさなご 主イエスよ。  
みむねを行う 力を与えて  
従うわれらと ならせてください。

讃美歌269番

- 1 飼えばおけに すやすやと  
眠るみ子は 主イエスさま。  
空に光る 星たちも  
その誕生を 祝います。
- 2 牛の声の 子守歌、  
固いわらの ふとんでも、  
救いぬしの 栄光は  
小屋の中に あふれます。
- 3 私たちの主 イエスさま、  
子どもたちを 祝福し  
いつも支え 励まして  
み国の子と してください。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし  
日ごとのわざに つかわしたまえ

